

# 川口の教育



【川口市歯と口の健康フェスティバル 令和5年6月4日（日）】

## 第649号

### 【目次】

- 私の教育実践 「児童の思いや願いに寄り添い、主体性を育む生活科の授業」  
川口市立芝樋ノ爪小学校 教諭 熊久保 朝海 . . . . . (2)
- 信頼される学校づくりのための参考資料  
～学校管理の視点からみる、子供たち・教職員を事故から守る環境づくり～  
川口市教育局学校教育部学務課学事係 . . . . . (3)
- 教育ルポ . . . . . (4)～(6)

6 月号  
—令和5年—

編集・発行 川口市教育委員会

# 「児童の思いや願いに寄り添い、主体性を育む生活科の授業」

川口市立芝樋ノ爪小学校 教諭 熊久保 朝海



## 1 はじめに

私は、平成30年度から令和2年度までの3年間、人事交流で幼稚園教諭として勤務した。その経験の中で私が学んだことは次の2点である。①幼稚園教育において、幼児は「遊ぶこと」を通して主体的な学びを積み重ねている。②その学びを支えているのは保育者の幼児理解や、声かけ・環境構成などのねらいをもった関わりである。

私は小学校教育においても児童の主体的な学びを実現していきたいと考えている。学習指導要領では生活科が「幼児期と小学校教育とを円滑に接続するという機能をもつ」と示されている。以下に幼稚園教育の様子と、生活科の授業の実践について述べる。幼稚園教育の良さがどのように小学校教育に生かせるか皆さんと一緒に考えていただきたい。

## 2 幼児に寄り添った教育実践

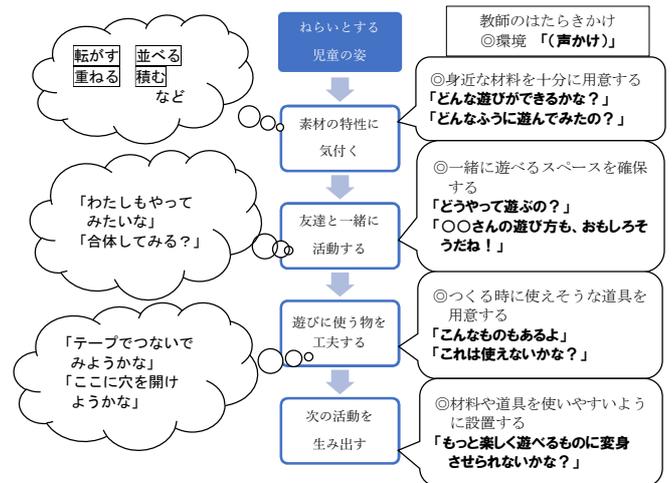
幼児は登園し、朝の支度を終えた後、幼児自らが選んだ好きな遊びをする。前日にしていた遊びの続きをする幼児、友達がしている遊びを試してみる幼児など様々である。

遠足の翌日を例に挙げる。保育者が保育室に大きな紙を広げておくと、幼児は、前日に行った遠足の様子や見てきたものをその紙にかき始める。「大きなバスに乗ったね」「一緒にお弁当を食べたよね。」などと、友達と話をしながらかき表していくと、「またバスに乗りたいな。みんなでバスを作ろう。」「お天気がいいから、遠足みたいにピクニックしようか。」と、新たな遊びへ発展していく。保育者はこういった幼児の思いを受け止め、遊び道具や材料を準備する。また、一緒に遊びながら、遊びの中に幼児目線でのどのような学びがあるか「ねらい」をもって関わる。思いを実現するには、幼児の思いだけではなかなか難しいこともあるので、幼児同士の言葉をつないだり、仲介したりする。このように児童が主体的に遊びを進めることで、「思いを自分たちで実現できる。」と、幼児は自信をもてるようになる。

## 3 小学校での実践

第2学年『あそんで ためして くふうして』の単元をとりあげる。この単元では、身近にある物（空き箱やプラスチック容器などの材料）を使って、遊びや遊びに使う物をつくる。児童が「どうしてかな」「やってみたいな」と思うことから始められるように導入を行った。事前準備とし

て児童に身近にある材料を教室に持ち寄らせることで期待感を高める。活動の際はまずは素材の特性に気付かせるというねらいのもと、敢えてテープやはさみなどの道具は提示せず、素材そのものに存分に触れられるようにした。活動の中では、個々に遊びを試していた児童達が友達の活動に興味をもち、自然とグループができていき、やりとりをしながら気付きを広げていく姿も見られた。無自覚の気付きを自覚化させるために、それらを言語化させられるように声をかけた。以下に主な学習の流れを紹介する。



生活科の目標に示された見方・考え方を「生かす」とは、一人一人の経験を発揮するということであり、児童が元々もっている力を存分に発揮しながら学んでいくことである。低学年という発達段階においては、「自分の経験したことを生かして学ぶことができる」という自信を持たせることが大切であると考え。そのために教師は、児童がこれまで経験してきたことを踏まえて、ねらいに合わせた環境を構成し、教師もその環境の一つとなり、活動の中で、気付きが深まるように声をかける。児童の活動や気付きは、具体的な活動の中で自然と生まれるものである。しかし、教師が意図をもって児童同士が関わるができる環境構成や言葉かけを行うことで、友達の活動を見たり、話し合いに参加したりできるようになり、友達同士の気付きも連鎖して気付きの質が高まっていく。

## 4 おわりに

児童への理解を基盤として、教師がねらいをもった環境構成や支援を行うことによって、児童の主体的・対話的で深い学びが実現されると考える。今後も、児童一人一人の思いや願いに寄り添いながら授業を創造していきたい。幼児期の学びや教育への理解が進むことで、小学校教育もより発展していくことを願っている。



# 信頼される学校づくりのための参考資料

～学校管理の視点からみる、子供たち・教職員を事故から守る環境づくり～

川口市教育局学校教育部学務課学事係

## 1 はじめに

学校訪問をとおして各学校の諸表簿や施設設備の様子をみさせていただいている。いずれの学校においても工夫を凝らしながら多様な取組を進めている。ここでは、今年度、訪問した学校の取組について、他校にも広げていきたい優れた事例をいくつか紹介する。ぜひ、各学校（園）の参考にしていただければ幸いである。

## 2 施設設備の管理

学校における施設設備の管理とは、「よい状態に維持したり、誰もが使いやすく把握しやすくするために整えたりすること」である。

また、「あるべきものが、あるべき場所にある」ということが、ものが適切に管理されている状況といえる。

### (1) 刃物の管理

小学校では図工準備室、中学校では木工準備室や技術準備室等に保管されることの多い刃物類の事例を紹介する。



#### 【はさみ・ダンボールカッター】

- ◎一目で総数がわかる。
- ◎ナンバリングがしてある。
- ◎カバーがついている。
- ◎ケースに仕切りがあり、片付けやすい。



#### 【きり・のこぎり】

- ◎1つ1つにナンバリングがしてあり、収納箇所にも番号がついている。1対1対応で管理されている。
- ◎刃物が落ちないように固定されている。

## (2) 体育館の掲示



体育館には、子供たちの命を守るための掲示物が多くある。左の「熱中症対策に係る暑さ指数（WBGT）」は、各学校で掲示されているが、さらに熱中症指数モニターが掲示物の近くにあることで、より効果的である。

また、AEDの場所が一目でわかる掲示物があることで、子供たちや保護者・地域の方にとっても把握しやすい。

## (3) 階段の転落防止柵



階段における転落防止では、「近づきません」等の掲示物や安全ネット、転落防止柵を設置している学校がある。

絶対にあってはならない転落事故については、十分な配慮が必要である。

## 3 緊急時の対応

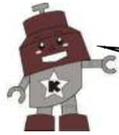


最後に「SOSカード」を紹介する。SOSの文字の下に教室名が書かれている。例えば、教職員がいない状況で子供が怪我をしたり体調を崩したりしたとする。子供は、黒板に貼ってあるこの「SOSカード」を持ち、素早く教職員に知らせる。教職員はカードに記された教室へすぐに向かう。特に、園児や低学年の児童は、現場の状況をうまく伝えられない場合もあるが、このカードを活用することで、迅速な対応が可能となる。

## 4 おわりに

学校訪問で見かけた素晴らしい取組の一部を紹介した。ここに記したものの以外にも多くの素晴らしい取組があり、今後も各学校のよさを市内に広げられるよう努めていく。「個人管理から組織管理へ」を合言葉に、すべての学校において、信頼される学校づくりがより一層進むことを願っている。

# 教育ルポ 教職員研修



川口市マスコット「きゅぼらん」

教職員研修をとおして、資質・能力の向上を図っています。真剣に参加する姿がとても印象的でした。

## 令和5年度 川口市立小学校 初任者研修 ～道徳科研修～ 於：飯仲小学校



## 令和5年度 川口市立小学校 初任者研修 ～道徳科研修～ 於：十二月田小学校～



令和5年度 川口市立中学校 初任者研修 ～道徳科研修～ 於：南中学校



令和5年度 川口市立小中学校 20年経験者研修 於：川口市立教育研究所

【浦和レッズヘッドオブコーチ・元Jリーガー土橋正樹さんの講義】



【働き方改革に関する研修】



# 教育ルポ 各学校の様子

## 【在家小学校】



大貫海浜学園



小中連携あいさつ運動



ネット利用ルールづくりワークショップ

## 【芝東中学校】



救命救急法研修会

## 【朝日西小学校】

